

# 猿新聞

## スズメ ツバメが減少

### 全国鳥類繁殖分布調査

環境省は、約20年ぶりに行った国内の鳥類の国勢調査ともいえる分布調査の結果を発表しました。

これまで約20年おきに実施されてきて、今回で3回目になるそうです。

1990年代の2回目の調査と比べ、スズメやツバメの個体数が大きく減少していて、ツバメは約6割、スズメは

約8割に減少しているという結果が発表されました。

#### 子育て環境悪化

このままのペースで減少し続けると、将来的には絶滅危惧種に指定するなどの対策が必要になるといいます。

スズメは身を隠せるような隙間を好み、そこに巣を作るのです。かつては、民家の茅葺屋根などが絶好の場所でした。しかし、近年日本家屋の欧米化によつて、スズメの住める隙



稲を食害するスズメ atakaの趣味悠久より引用



「スズメ巣作り」こんな場所がなくなった 日経ナショナル ジオグラフィックより

早苗の害虫を食べる益鳥。秋には穂が出ると大群で押し寄せ、穂を荒らす害鳥といふ「益」害の2面性をもった鳥です。

環境省は、約20年ぶりに行った国内の鳥類の分布調査結果を発表。

調査は1970年代調査(1974)

間が少ない家が増えて、現在のスズメは巣作りが困難をきたしています。

次に、農薬の影響や減少・都市部での空き地や草原の減少も大きく影響していると考えられています。

スズメは「舌切り雀」など昔話でも知られている身近な鳥です。

一生を日本で過ごす留鳥で、生涯を日本の生態系の影響を受けながら生息しています。 ※(年間を通して同じ場所に生息し、季節による移動をしない鳥の総称)。

スズメは、農作物などに対して、春には

- 編集責任者 山村 準  
tel:0595-63-1725  
Email jyun.y@asint.jp  
名張鳥獣害問題連絡会
- 発行部数
- 【全戸回覧】  
錦生地区：100部  
赤目地区：150部  
箕曲地区：70部  
ひなち地区：205部  
つつじが丘：430部
- 【全戸配布】  
国津地区：380部  
滝之原地区：125部  
市民センター：90部  
(9地区)  
名張市議会：20部  
名張市役所：30部

農作物の食害もそれに連れ減少しますが、反面、害虫などが激増し、均衡を保っていた生態系のバランスが崩れ農業被害の増加も考えられます。

1958年頃、中国・毛沢東の主導でスズメを撲滅する計画が実施されました。

その結果、農作物の害虫が増え、全国的に凶作となり飢饉さえ発生しています。巨大な力で生態系をゆがめると、こういうことが起こるといふ笑うに笑えない史実です。

虫の世界でも、花の受粉を手伝ったり、害虫を食べてくれる益虫や、反対に益虫を食べたり農産物に被害を及ぼす虫が存在するといふことも頭の片隅に留めておいて下さい。

#### ツバメ減少原因

ツバメは冬を東南アジアなどで過ごし、春から夏にかけて日本へやって来る、私たちの身近な渡り鳥です。調査によると、ツバメも減少傾向にあるとい

います。原因は、スズメ同様自然環境の変化や、巣を作る場所の減少など



カラスに壊されたツバメの巣 日本野鳥の会HPより引用



ツバメの巣作り 神戸新聞HPより引用

が考えられます。しかし、ツバメは渡り鳥で、春になると南の国からやってきます。ツバメの減少原因は、日本(繁殖地)での環境の変化や、南の国(越冬地)のツバメに対する環境悪化を併せて考える必要があります。

農家の高齢化により、水田が減少し、狭い土地でも一定の収入が得られる野菜栽培にシフトしていることもツバメ減少原因の一つです。

一般的に野鳥はひと目につかない所に巣を

作り子育てしますが、ツバメだけは人がたくさん出入りするところに営巣します。

人の住んでいる家にはへびやカラスなどの天敵が来ないことを本能的に察知しているのか、人間が生活していない倉庫や作業場には巣作りはしません。

多くは民家の玄関先で、昔ではツバメの巣が幸運の象徴と考えられていて、巣作りしやすい棚を設置するなどツバメの渡りを心待ちにしていました。

#### 人とツバメ 軋轢高まる

しかし、現代では、不衛生を理由に、玄関先を防鳥ネットで覆ったり、ツバメの巣を壊すなど、人とツバメと

の間関係も大きく変わって、ツバメと人のつながりが消えつつあります。



ツバメの子育て 日本野鳥の会HPより引用

#### ツバメの餌は昆虫

繁殖期、巣の材料の泥を求めるとき以外は、地表に降りることは無く飛翔しながら昆虫を捕食したり、水面を跳びながら水を飲むとまでいわれていて、地表に降りないのですから餌はもっぱら飛翔する昆虫です。

ツバメは、その小さな体からは想像できないほどの大食漢で、1日に数百匹もの虫を食べるそう、ツバメが害虫駆除の益鳥として重宝される理由がここにあるのです。

#### インコ都会で繁殖

古くから「都市鳥」として馴染みの深いスズメやツバメなども、人間目線で改変した大都

会に住みにくいようその数を減らしています。また、ペットとして飼われていた外来種である「ワカケホンセイインコ」が、逃亡や放鳥などで野生化し大繁殖していることも、小型のスズメ・ツバメの減少に影響していると考えられています。いま、東京で大繁殖しているインコは、セキセイインコのような可愛らしいものではなく、平均で体長40センチにもなる大判のインコです。一時期、新潟や京都、宮崎など18都府県で生息が確認されたが、現在は関東以外では、ほぼ見られないということとです。現在、個体数が減少傾向にあるスズメは、都会に順応した鳥ですが、体型が小さいため「ワカケホンセイインコ」に駆逐され、更に数を減らす恐れも考えられます。

# 野生動物と人間の共存の未来

## 生き物すべてにいいぶんはある

今、問われているのは、野生動物と人間の共存の未来です。獣害対策は従来の「保護」から「管理」へとシフトされ、獣害対策は有害駆除が主流になっていきます。しかし、獣害は個体数削減のみで解決できる問題ではなく、人間側が解決しなければならぬ問題が多々あります。

2021年12月18日付け、毎日新聞朝刊で、中瀬日々翔さんの「生き物すべてにいいぶんはある」が目に止まりました。

いま、各分野で次世代の担い手の育成が問題になっていますが、中瀬日々翔さんのような少年が多く育つことにより、いま、私たちが目指している、野生動物との「棲み分け・共存」の未来の展望は明るいものとなります。

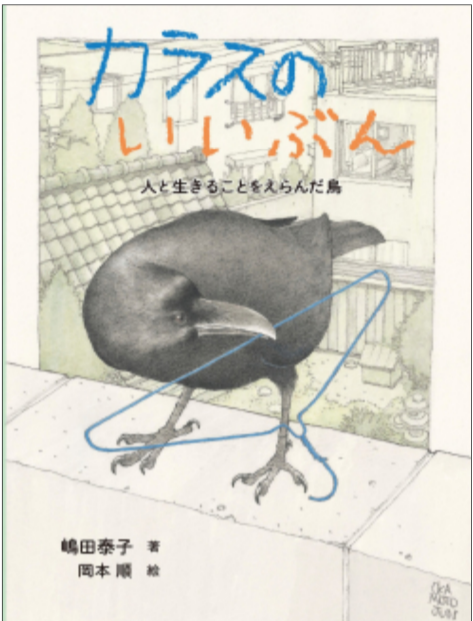
この文章の本紙引用に当たっては、毎日新聞社のご協力で、読書コンの三重事務局を紹介され、更に読書コン三重事務局から「中瀬

「コソツツ。」「いたつ。なんだこれ」。六さいのとき、うち園の園庭にある木の下で遊んでいたぼくの頭にハンガーが落ちてきた。ほん人はカラスだった。「なんだこのカラス」。ぼくがカラスを大きくらになったのはじまりがこれだ。

この本をえらんだのは、ハンガーをくわえたカラスの表紙が目に入り、カラスのひがいを

「コソツツ。」「いたつ。なんだこれ」。六さいのとき、うち園の園庭にある木の下で遊んでいたぼくの頭にハンガーが落ちてきた。ほん人はカラスだった。「なんだこのカラス」。ぼくがカラスを大きくらになったのはじまりがこれだ。

この本をえらんだのは、ハンガーをくわえたカラスの表紙が目に入り、カラスのひがいを



「コソツツ。」「いたつ。なんだこれ」。六さいのとき、うち園の園庭にある木の下で遊んでいたぼくの頭にハンガーが落ちてきた。ほん人はカラスだった。「なんだこのカラス」。ぼくがカラスを大きくらになったのはじまりがこれだ。

この本をえらんだのは、ハンガーをくわえたカラスの表紙が目に入り、カラスのひがいを

「コソツツ。」「いたつ。なんだこれ」。六さいのとき、うち園の園庭にある木の下で遊んでいたぼくの頭にハンガーが落ちてきた。ほん人はカラスだった。「なんだこのカラス」。ぼくがカラスを大きくらになったのはじまりがこれだ。

この本をえらんだのは、ハンガーをくわえたカラスの表紙が目に入り、カラスのひがいを

をもっているのではな

しかし、ぼくはこの本を読んでカラスの知のうはもっと高いのではないかと思った。ほしいものを手に入れる方ほうの考え方が、とても八さいでは思いつかないようなことだったからだ。それに、カラスはすをこわした、たまごやひなをこわしたはん人の顔をおぼえていて、そのはん人だけをねらっておそうのだそう。

ぼくの頭にハンガーが落ちてきたあと、あぶないからと先生たちがすをこわそうとした。だからカラスがおこっ

「カラスがおそつてくるかもしれないので気をつけてください」とむかえにくる親や子どもたちに言っていた。カラスはこつちを見て

いるようで鳴き声も羽の音も、いつもより大きかったのでも、こわかったのをおぼえて

いる。けれども、ぼくはもうこわくない。カラスがおこつたのは、すかたまごかひなをまもるため、はん人しかおそわない。ぼくたち人間だって家をこわされたら、子どもをこわさるそうになったら当せんおこる。だから、なんにもしていないぼくの頭にハンガーが落ちてきたのは、きつとすまたま下にいたぼくに

たってしまったのではないかと思った。

ちよ者は、本のおわりにカラスがふえすぎて問題になった東京とが「ハシブトガラスたいじ」をしていると書いていた。

ぼくは、このぶ分を讀んでちよ者と同じでむねがいたくなつた。なぜなら、ぼくもカラスが大きらいだったけれど、この本を讀みおわるころには大すきになつて

いたからだ。つかまえてころすいがいの方ほうはなかつたのか、一しゆだけを大りようにたいじすること

で生き物たちのバランスがくずれないのか。ひとが自分たちのつごうをおし通すのではなく、すこしゆずれば、ともに生きることができるのではないか。ちよ者のこの問いかけは、すべての生き物にいいことがあるという

ことに気づいた。生き物すべてにいいぶんはある。だから、まずは相手のいいぶんをきく。ぼくは、そこからはじめたいこうと思う。」

(2021年12月18日付け、毎日新聞朝刊より原文のまま引用)

### POINT

「ハナレザル」について

ニホンザル（以下サルと表記）の社会構成は母系社会です。群れで生まれたコドモのうち、メスは生涯を生まれた群れで過ごします。オスは性成熟に達する4-5歳ごろに生まれた群れを出ていってしまいます。（近親交配が起こらないようにらしい。）群れの中には血縁関係によって結ばれたメスとコドモたちと、血縁のつながりのないオスたちが一緒に暮らすこととなります。

オスは、生まれた群れをでると、よその群れにはいりますが、移るのに時間がかかることがあるために、ある程度の間は群れとは離れて、ひとりで暮らしているサルがいます。これがハナレザルとよばれているサルです。

また、ハナレザルがオスばかりなのはこういう理由です。《但し、メスのハナレザルがいる事が最近判明されています》

何処の群れから出てきたハナレザルかを判別する方法としてDNA鑑定を利用しています。

名張では、平成30年の抱きつきザルが有名で、抱きつかれた方が十数人に及びます。このサルは捕獲された模様で、その後被害は出ていません。昨年から3頭のハナレザル行動していますが、その中に威嚇するのが頭いますのでご注意ください。

ハナレザルは、つつじが丘だけでなく市内にも行っているようです。秋の交尾シーズン、群れの近くに今まで見た事のない大型のサルを見かけたらハナレザルと違って間違いありませんが、繁殖期が終わるといなくなります。

文・古川 高志

